【資料1】

2019年度
学校経営方針に対する
自己評価

芝浦工業大学柏中学高等学校

【2019年度:№2】 （年間内部評価） 2月

Ⅲ　2019年度教育活動の重点目標		コメント
１．学力の充実・向上		
(1)授業見学や教科内を中心とした相互交流によって授業力の向上をはかり、個々の生徒の授業に対する満足度を高めます。	3	授業見学はよく行われている。ただしその後の相互評価や、他教科同士の相互評価についてはなかなか進んでいないのが現状である。次年度は持ち時間数の調整が実施されす中で相互評価の時間を捻出していきたい
(2)個々の教員の作問力を向上させることで、定期考査を通じての学力増強をめざすとともに、考査の厳正なる実施に努めます。	3	作問や問題冊子作成は毎回工夫され、改善されてきている。考査実施においては、公共交通機関の遅延に対応する教員側の対応と、その後の試験実施形態の判断について検討していきたい。
(3)中学校舎教室に続き、高校１・２年生教室のホワイトボードへの取り換えを終了、プロジェクターと連動した効果的な授業内容の創意工夫に努め、快適な学習空間づくりを促進します。	4	ホワイトボード上方短焦点プロジェクター：ワイードを効果的に使用した授業展開は、生徒教員ともその授業形態に慣れ、今後はＰＣやタブレットとの連携が進むとよりよいものとなる。
２．学習・進路指導の充実		
(1) センター試験において5教科7科目受験する国公立希望者140名、平均点75%を目指します。マークカードの利用やセンター対策講座の他、2021年の共通テストに向けた研究をすすめ、生徒にフィードバックします。	3	センター出願は254名、うち国公立型での実受験102名(文系19名、理系83名)。出願者数としては十分目標を達成しているが国公立型の受験としては物足りない。平均としては文系で70.6%、理系で68.7%と全体としてはいずれも未達ではあるが、上位層が健闘している。科目別では英語、数ＩA、化学基礎、倫政、物理、化学、世界史、現社、政経の9科目の全国偏差値平均で過去最高となった。見送りとはなったが英語成績提供システムの研究などしっかり行い、情報提供できた。
(2) 学習ルーブリックを活用し、 成績との相関を調べて生徒にフィードバックします。家庭学習と連動した授業での学習を意識し、自立した学習者を育てます。	3	各学年で年間を通して何度かルーブリックの状況を確認し、次の目標を設定する取組は定着している。さらにこの作業を推進するために、ルーブリックの簡易版を作成中である。各学年においても自学習の推進がなされ、とくに中学・高校の１年生向けの学習ガイダンスも改定をすすめながら実施された。
(3) スタディサプリを活用し、自学自習をすすめる他、ポートフォリオについて中1から高2までｅポートフォリオを作成します。	3	ポートフォリオに関しては高1高2を中心に作成している。スタディサプリに関しても達成度到達試験を取り入れるなどログイン数が飛躍的に増えている。教員の負担が大きく使用方法など、業者側から
(4)　英検やＧＴＥＣなどを学校として推進し、生徒の状況について、担任や学年団が把握し、助言できる環境を作ります。	4	GTECは中2から高2まで全員が公式スコア版を受検しＣＳＥスコアを残すことができる体制を整えた。また中1はアセスメント型を実施し、成績によって次年度の受検型を決定する準備を整えた。英検は次年度以降を見越し、従来型に加えＳ-ＣＢＴの受検も勧めたい。今年度は従来型を学校とりまとめのもと学外受検で行った。
(5)　高校1，2年生を中心に、キャリア教育を推進し、大学の志望学科などについての探求が進むようにカリキュラムを検討します。	4	仕事塾や海外研修、ＷＥＢ教材開発コンテスト、自分史の作成などを通し、度確立した内容で教育実践を行うことが出来ている。
(6) 理系に進学する女子を増やすために、さまざまな方策を検討し、イベントを実施します。	4	ＯＧや他校卒業の女子学生による理系女子講演会をはじめとして、さまざまな資料を配布するなど理系大学進学を芽出す女子生徒向けの情報提供をおこなった。
(7) 学習ガイダンスと進路の手引きを見直し、継続して生徒が学び続ける力を発揮できる体制を構築します。	4	進路の手引きをスリム化し、必要な情報に絞って読みやすい形にした。最新受験情報を年度ごとに掲載していく。
３．生徒活動及び生徒指導の推進		
(1) 電車やバス、駅などの公共の場で、自分たちのことだけを考えるような行動を慎み、周囲に迷惑をかけないしっかりとした行動ができるように、教員の協力のもとＨＲをはじめ全校集会や学年集会などで指導を行います。	3	今年度後半になって、外部の方からの苦情は減少した。しかし、まだ社会の一員として責任ある行動をとれない生徒もいるので、継続して指導していく。
(2) 学校生活を通して、生徒が自立的、積極的に行動できるよう、生徒会や委員会、部活動などで指導、助言を行います。	4	生徒会をはじめ各委員会とも、生徒が自らやるべき事に積極的に取り組むようになってきた。さらに生徒が積極的に課題解決に取り組むことができるように援助していく。
(3) 学校生活における基本的な行動指針を生徒に示し、学校生活にふさわしい生活態度がとれるよう、またしっかりとした学校生活を送ることができるように指導を行います。	4	年度当初に先生方に生徒指導に関する指針を配布し、指導の統一をはかった。引き続き指針に基づいて教員が一丸となって指導に努め、生徒にとって快適な生活しやすい学校環境を整えていく。
４．健康な学校生活の推進		
(1) 生徒および教職員の健康診断結果に基づき、すみやかに検査や治療の勧告をします。インフルエンザ、麻疹などの予防接種を勧奨します。養護教諭による保健指導、ＡＥＤ・心肺蘇生法・エピペンの講習会を引き続き実施します。	4	健康診断、予防接種、講習会など生徒や教職員において重要な取り組みを実施できた。ＡＥＤ・心肺蘇生法・エピペン講習会は広く呼びかけ、新任教諭は全員履修できた。インフルエンザ等の感染症予防について周知徹底するとともに、引き続き健康で安全に学校生活を送ることができるよう配慮した。
(2) 「食育」を継続して推進します。カフェテリアの業者と協力しメニューが生徒の健康と安全に配慮したものになっているか確認していきます。また、学校内で販売している飲料に関しても同様に確認していきます。	3	学校のホームページにカフェテリア（献立の一例含む）の記事を掲載。今後も、成長期に必要な鉄分、カルシウム、ビタミン類を摂取できるような栄養面で偏りのないメニューを提供していくよう尽力する。また、校内で販売している飲料や食品が生徒に適したものか、業者の協力を得ながら確認した。
(3) 相談室「クオレ」において生徒の学校生活への適応や、教員・保護者の対応を支援します。引き続き教員向けの研修会や事例検討会を実施します。	4	学年担当者から定期的に生徒情報を供与してもらい、スクールカウンセラーと連携しながら、適切な指導やサポートを行った。また事例検討会を実施した。
(4) 中学生の「心の教育」を推進し、豊かな心を育てる学校を目指します。	4	学校生活の様々な場面で「心」を育てる取り組みをした。
５．情報教育の推進		
(1) 統合型校務支援システムの導入を大学との連携を視野に入れ、次年度には運用を開始します。	4	附属中高の校務支援ソフト大学と連携し本校で実用可能にした。次年度運用に向け今年度データを用いて運用を始めた。4月から運用を開始します。
(2) 高校棟にワイードを設備し、夏には無線LANを高校棟、ホール棟に導入します。	4	ワイードを活用した授業が増えている。効率的に授業をおこなえるようになった。また生徒の発表にも使われている。
(3) 教員系メールにおいて、Ｇmail(メールソフト)への移行を実施し運用を開始します。	4	教員系メールにおいて、Ｇmail(メールソフト)への移行を実施し運用を開始した。問題なく運用できている。携帯など端末を選ばずに使用できるため便利になった。
６．多様な進路実現・能力開発にむけてのコース・カリキュラム選択		
(1) 種々の進路行事や面談などの場を経て、生徒が自分の希望の進路を見出すうえでの支援を行うとともに、それを実現するためのカリキュラムやコース選択を提示しその実現へとつなげます。	4	年3回の生徒面談を中心として、保護者面談や必要に応じて都度面談を行い多様な進路実現に向けての意思疎通を図っている。個々の進路に応じた細かな科目選択が可能となっているがさらに多様な進路実現が達成できるよう、委員会を立ち上げカリキュラム研究を行っている。
(2) 高大連携改革の方針により、今後の大学入試における総合型選抜・学校推薦型選抜に対応し、「主体性・多様性・協働性」などを育むとともに、各自のportfolioでの記録を促すなど、多様な入試方式に対応する幅広い学力の錬成を促します。	3	授業の他、学校行事、部活動や総合学習（総合探究）などでの活動を通じて、「主体性・多様性・協働性」を育む実践が実施されており、これらの活動記録をportfolioにまとめることも実行に移されているが、文部科学省の方針変更もあり、混乱していることは否めない。今後の動向に注意し、適格に対応したい。
(3) 基本的な知識・技能を集積するだけではなく、それらを連関させて思考・判断・表現につなげるなど、試験・入試のための学力ではなく、社会で活躍・発揮できる能力の開発・定着を目指します。	4	総合学習における自分史やWeb教材開発コンテスト参加など従来から行ってきたものを継続し、さらに文系まで広げた探究の時間を放課後に設けるなど多様な進路に対応できる力を養っている。
(4) 中学を含めて、各クラスが活性化するクラス編成を検討します。	3	現状のクラス編成の利点・問題点を抽出している段階であり、これらの点を踏まえて、今後のクラス編成に反映させていく。
(5) 種々の英語検定講座などを通じて英語４技能の能力を高めるとともに、外国の文化・価値観や国際的な問題を理解して、さまざまな場で活躍できるグローバルな人材育成に努めます。	4	外部検定各種対策講座の実施や、夏期ホームステイによる短期留学先をアメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリアに増やし充実を図った。
７．読書習慣の形成と視聴覚教育の推進		
(1) 生徒がより読書に意識的に取り組むよう、図書室の閲覧環境などの改善をはかるとともに、様々な読書を促す取り組みを実施します。	3	高校生ビブリオバトル実施、中学は年明けにやる予定。
(2) 質の高い本物の芸術を鑑賞する機会（本年度薬を古典芸能）を設け、豊かな感性を養います。	3	今年は、高校が歌舞伎、中学が狂言を鑑賞した。
(3)　ICT化を進めて視聴覚・情報機器を活用しやすくし、中学棟、高校棟のワイードの活用など、より効果的な授業支援環境の整備をはかります。	3	各教科でICTを進めている。ロイロノートかスクールタクトの導入を検討している。
８．「家庭と学校」「地域と学校」の連携及び安全の推進		
(1) 防災、危機管理の体制を再検討し、災害時の避難連絡体制、防災訓練を年２回行うことを定着させ、より有効な防災備品の追加、備品管理場所の確保などを行い、非常時に円滑に行動できるように全教職員、生徒に周知徹底をはかります。	3	夏期教員研修で教員向けの防災実習を行い、全教職員に本校の実態を確認してもらった。
(2) PTA、同窓会との連携を図り、諸活動の活性化を促します。	3	４０周年事業もありＯＢとのかかわりが例年より多かった。
(3) 式典は厳粛で、生徒保護者に満足されるように、行事は効率的かつ一体感をもって安全に運営します。	3	中学校の司会を生徒会主体で行おようになった。
９．入試広報活動の充実・募集形態の研究		
(1) 学校説明会において本校が望む生徒像をアドミッションポリシーに従って明確に示し、また入試形態を簡潔に説明していきます。	3	学校説明会では、教育の3本柱（ＣＳＣ・グローバル・サイエンス）を中心に本校の教育理念を説明し、入試形態も簡潔に説明できた。次年度はアドミッションポリシーをさらに強調していきたい。
(2) 本校の教育理念を明確にし、本校の教育の特色をわかりやすく盛り込んだ学校案内を５月までに作成し広報活動に生かします。	3	学校案内は5月の説明会に間に合うよう作成した。今年度のは教育の3本柱としてＣＳＣ活動（探究活動）を盛り込んだ学校案内となり、ＳＳＨ2年目の本校の教育の特色を生かしたパンフとなった。しかし、いくつかの誤植があり次年度に向けて校正方法を検討したい。
(3) ＳＳＨ活動などのサイエンス教育や海外研修や短期留学をはじめとするグローバル教育、また探究活動をはじめとする本校の教育の特色など、外部にＰＲすべき内容を精査し受験生獲得に向けた広報活動を実施します。	3	広報誌などで本校のグローバル教育の特色を取り上げた。ＳＳＨ活動に関しては、学校説明会などでは広報してきた。今後はさらに具体的な取り組みの紹介などを行いたい。
10．事務室によるハード・ソフト両面にわたる学校運営支援体制の深化		
(1) 一部老朽化の進む施設・設備について、必要に応じた迅速な修繕・改修を施すことで、教育環境の維持・美化に継続的に努めます。なお、状況を十分に把握し、法人関係部課とも協議した上で、修繕・改修時期に関する的確な判断を下します。	4	PTA後援部支援による中学棟内壁及び高校棟トイレ内壁補修、トレーニングルーム床面補修、中央棟・高校棟・ホール棟内無線LAN整備 各工事をを計画どおり進めることができたほか、日々発生する小～中規模な修繕が必要となる施設・設備関連不具合に対しても、法人関係部課と連絡を密に取り合い、迅速に対応できた。
(2) 学年主任会・教科主任会との連携を密にすることで、各会から上がってくる事務関連諸提案や要望に関する検討を迅速に行います。	3	要望等を吸い上げ、事務室現場判断で進められるものは進める態勢は整っている。ただし、継続的経費削減下にありながら、本校は校内ICTインフラ整備にかなりの経費をかける必要があることから、小規模な施設・設備系案件については、安易に進めることなくまずは運用で凌ぐ姿勢が法人より強く求められている。実務を通じ「‘限られた予算枠と中長期的視点に基づく優先順位づけ’先にありき」との認識を学校全体で共有できるよう、努め続けたい。
(3) 高校棟普通教室への超短焦点プロジェクター付ホワイトボードの設置を完了させるのみならず、ホール棟内の教室への早期設置に向け、法人関係部課との折衝を重ねます。また、無線LANの校内全域整備を鋭意進めます。	4	高校棟普通教室への超短焦点プロジェクター付ホワイトボードの設置は年度当初に完了し、無線LAN設備がない校内エリアへの設置工事も夏休み期間中に終えた。次年度のホール棟普通教室・中央棟理科実験室への超短焦点プロジェクター付ホワイトボードの設置並びに教務系ICT環境更新について、法人担当部課との折衝の結果、実現できる見通しが立った。
(4) 2年目となるスーパーサイエンスハイスクール支援事業に付随する諸事務を、研究部と連携して正確かつ確実に進めます。	3	2年目ということもあり、諸事務の実務処理は正確かつ確実に進められるようになっているが、本来業務で多忙を極める研究部教員団が担うSSH諸実務の締切期限調整については、継続的な課題として取り組む必要がある
11．生徒の理解が深まる授業・研修活動の充実		
(1)　主体的・創造的な学習活動やICT教育を推進するために、全教員・教科会の活動の強化をはかり、相互の協力を通じて授業力向上に努めます。	3	ワイードの導入、wi-fi環境の整備など、ICT教育を推進するハード面の拡充がはかられるとともに、これらを活かした授業にも進展がみられている。同時に、ICTの活用などの学習会・講習会なども開催され、環境面のみならず、教員自身がスキルを高める取組も行われている。ICTを活かした調べ学習や討論学習も行われるなど、授業開発の成果も広がりをみせつつある。次年度には、ワードが全ホームルーム教室に設置され、またこれらの学習・授業にも適したソフトの導入も検討されており、質量ともに向上が期待される。
(2) 授業アンケートを活用して、生徒が求めている授業への視点を活かして、授業改善に取り組みます。	3	授業アンケートの質問項目を再検討し、生徒の主体的・能動的な授業への参加などを確認するために、「対話の効果／表現の場」などの項目を加え、また質問内容にも一部手を加え、現状の把握や以後の授業改善により役立つ内容に変更した。例年通り、6～7月に続いて、今年度も2月に再実施し、アンケートに基づく、改善状況を把握し、今後の授業の向上を目指していく。
(3)「SK学習ルーブリック」を基に、各教科の評価基準に即した観点の設定を試みるなど、生徒が各自の学習参加の現状分析や課題の提示ができる環境づくりに努めます。	3	「SK学習ルーブリック」の簡易版を作成中で、次年度の使用をめざしていく。この導入により、とくに中学生において、より自身の評価・課題を明確にすることが可能となる。また各教科において定期テスト・課題・作業などを通じて、生徒に到達度の指針や課題の克服法などを示す取組が試みられており、授業力・作問力の向上が期待される。
(4) 高大接続改革や新カリキュラムの開始を踏まえ、今後求められる学力観を理解し、それらを養える授業づくりのための研究を進めます。	3	新カリキュラムでのポイントとなる「探究学習」などにおいて、各教科で研修会に参加するなど研究を重ね、一部授業では実践に移されている。この点においては、学校設定科目SS、GSにおいて、生徒の継続的な探究における成果も示され、一部では外部の研究会などでの評価につながっている。また高大接続改革を見据えて、大学受験のみならず、大学入学以後にも必要とされる学力を今後どのように養成していくかに関しても議論を重ねている。
(5) 生徒の日常の学習状況がはかれ、また生徒の学習の指針となる定期試験の作問を心掛け、また教科会においても作問力向上につながる取り組みを目指します。	3	従来通り新傾向の問題を含めるなど、新たな受験制度に対して研究のうえ準備を重ねており、ベテラン・中堅教員が若手教員の作問を指導するなどの体制も継続されている教科が多い。このような点で安定的な作問体制が築かれているが、現状では全員で問題を検証するなどの対応までには至っていない。
12．ホームページを中心とした広報活動の充実		
(1) “Web　First”をテーマとして、学校パンフレットの連携とともにホームページをより充実します。	4	パンフレット業者の協力の下、パンフレットの内容を学校ホームページに落とし込んだ。また、学校の最新情報をホームページでアップすることができた。
(2) グローバル・サイエンスクラス・SSHの情報や取り組み、成果をホームページを通じて広く伝えます。	4	SSHなどの行事をトピックスの形でホームページに掲載した。研究部の先生方の協力のおかげで行事終了後、速やかに情報をアップすることができた。
(3)　SNSによる情報発信を推進していきます。	4	Twitter、Instagramについては活用についての流れができた。入試情報についてはLINE＠を用いて発信した。
13．スーパーサイエンスハイスクールとしての実践の充実		
(1) 探究特設授業、中高一貫探究プログラムの教育課程の開発を行い、ＣＳＣ（Creative, Studious, Communicative）能力の育成をはかります。	4	探究特設授業では、課題設定，中間発表会など探究の進め方の授業が昨年度より充実した。特に文系ではゼミ形式の授業プログラムを計画的に実施できている。中学校においても課題研究メソッドベーシックをテキストとしてWebコンテスト等にも探究の手法を活用し、ＣＳＣ能力の育成に向けて積極的に取り組んでいる。今後も試行を重ねつつ、定着する手法の開発に取り組みたい。
(2) 課題研究の指導法、評価法を研究し、共有します。また、教員対象の指導研究会を実施します。	4	探究の指導法については、特設授業の実践を通じて本校で共有できる形式の開発、研究を進めてきている。探究ルーブリックの活用は今後の取組みとして残っている。教員指導研究会については、生徒の成果発表会と併せて各教科の公開授業、指導研究会を2月に実施予定である。これらを通じて新学力に対応した授業力の向上につながる環境を整えたい。
(3) ベトナムＦＰＴ高校サイエンスツアー、芝浦工業大学や千葉大学留学生との交流を実施し、グローバル人材の育成をはかります。	4	ベトナムFPTとの交流については事前学習等計画的に進め、内容のある交流になっている。さくらサイエンスでの中国高校生との交流、千葉大学留学生との交流を実施し、生徒の経験の機会を提供できているが、芝浦工大留学生との連携については、今後進めていきたい。
(4) 芝浦工業大学と連携して、先取り授業や理系女子育成プログラムを実施します。また、外部諸機関と連携して、他大学・研究所見学、特別講座を実施します。	3	従来からのＳＳＣⅢ先取り授業、理系女子講演会に加えて、今年度は芝浦工大との連携講座(ワークショップ)を実施している。外部見学会については、主となる探究プログラムの開発を優先しており、今年度数多くは実施していない。特別講座は(数学科)桜井進先生、(探究)岡本尚也先生、(さくらサイエンス)東工大原先生、(探究)サイエンスコミュニケーション講座、等今年度実施できてい

※４段階　：【４】十分に達成　【３】ほぼ達成　【２】やや未達成　【１】未達成　 評価理由コメントをお願いします。